

えぼし岩の本当の名前

えぼし岩の本当の名前は、「姥島」といいますが、「えぼし岩」と呼ばれ親しまれています。昔、武士や公家がかぶっていた「烏帽子」という帽子の形に似ていたため「えぼし岩」と呼ばれるようになったそうです。

大きなえぼし岩

えぼし岩は、地震など自然の力で海の底がもりあがったものです。遠くから見ると小さく見えませんが、高さが14・94メートルもあって、とても大きいです。岩の上も広いので、上陸することが出来ます。

えぼし岩のひみつ

茅ヶ崎の海辺からいつも見えている「えぼし岩」。茅ヶ崎に住んでいる人はもちろん、たくさんの人に愛されているえぼし岩取材しました。文化資料館でえぼし岩の自然や歴史を勉強した後は、えぼし岩周遊船に乗って…

いざ、出発!

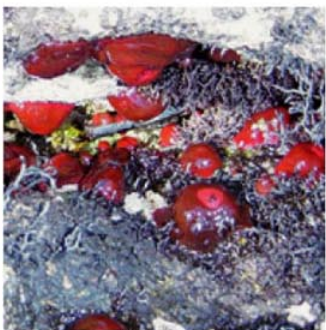
周りに住む生きもの

えぼし岩の周りや岩の上には、茅ヶ崎の海岸では見ることのできない貴重な生き物がたくさんいます。

太平洋側には、フジツボやイワガニなどがいて、岩礁に囲まれて波がおたやかなところは、インスジエビやウツボ、ウノアシガイなどがいます。潮が流れ込む岩の間には、ヒシキなどが生えているほか、神奈川県天然記念物のウメボシノギンチャクなどがいて、岩の上には鳥が運んできた種から芽が出て育ったクコが生えています。調査では、90種類以上の生き物がいることが分かっています。こんなにたくさん生き物が住んでいるなんてびっくりしました。



クロフジツボ



ウメボシノギンチャク



えぼし岩の正体

えぼし岩は、火山から出たものなどが海底に積もったものからできています。

えぼし岩を近くで見ると、斜めの線が入っています。これは地震の力で地層が傾いたためです。

岩が白く見えるのは、鳥のフンと海の塩が固まったものです。



えぼし岩の漁場

えぼし岩の周りは岩が30個以上もある岩礁になっていて、魚がたくさん捕れます。

だから、茅ヶ崎がいくつもの村に分かれていた昔は、海のごとからどこまでがどの村の漁場なのか、茅ヶ崎の漁師同士でよく争いが起こったそうです。江戸時代には、伊豆の漁師も茅ヶ崎の海まで漁にきて、えぼし岩を巡って地元の漁師と漁場争いになったそうです。茅ヶ崎に残っていた古い記録から、えぼし岩は茅ヶ崎のものだと決着がつきました。

今もアジやサバ、イサキ、イナダなどが捕れ、「小鯖島」や「大鯖島」など魚の名前がついた島があります。



上空から見たえぼし岩

的にされたえぼし岩

茅ヶ崎海岸は、第二次世界大戦が終わった後アメリカ軍に占領されて、砲撃と上陸の練習をする場所に使われました。えぼし岩は昔はもっと先が長くつながっていたのですが、砲撃的にされて形が変わってしまい、今の姿になりました。

えぼし岩にある穴はなんだ?

えぼし岩に穴が空いていることを知っていますか？これは、神様をまつる「ほころ」の跡です。漁業の安全や魚がたくさん捕れるように願ってこの場所に尾根神社が作られました。昔は鳥居もありましたが、風が来ると波にさらわれて壊れてしまっているので、毎年漁師のみなさんが作り直していたそうです。



ほころの跡



昭和初期のえぼし岩

富士山と「裏えぼし」

裏側から見るえぼし岩は、海岸から見るのとは見え方が違います。船ですぐ近くまで行ったので、砲撃で欠けたところもよく見えました。取材の日には晴れていたのですが、えぼし岩の向こうに富士山がすぐきれいに見えませんでした。三浦半島の方には曇気楼も見えてびっくりしました。

